

会議録（要点筆記）

会議名	第5回米原市地域福祉計画推進会議
開催日時	平成30年2月27日（火）午後7時から午後8時30分まで
開催場所	米原市役所 山東庁舎別館2階 会議室2AB
公開・非公開	公開
傍聴人	なし
出席者	出席委員：13人 西秋会長、空閑副会長、阿藤委員、永田委員、森委員、吉野委員、樋口委員、福永委員、振角委員、中村委員、高木委員、伊藤委員、江川委員 欠席委員：2人 棚池委員、北森委員
	事務局：14人 市：千種健康福祉部長、堤次長（くらし支援課長）、平山課長補佐、西村主幹、亀山主任 市社会福祉協議会：田中地域福祉課長、村山課長補佐、中川、藤谷、膽吹、伏谷、中嶋 (株) ジャパンインターナショナル総合研究所 荒井
議題	(1) 「第2次まいばら福祉のまちづくり計画」策定のためのアンケート調査結果（案）について (2) 福祉座談会について
結論	・アンケートの分析結果を具体化し、計画に反映させる。 ・参加しやすく楽しんでもらえる福祉座談会にする。 ・幅広い年齢層の声を拾い上げながら計画に反映させる。
事務局あいさつ ただいまから第5回米原市地域福祉計画推進会議を始めさせていただきます。本日は棚池委員・北森委員から欠席の御連絡をいただいております。江川委員は後ほど来られます。本日は委員15人中現在12人の御出席をいただいております。会議は成立しております。前回に引き続き、ジャパン総研の荒井さんに同席していただき、後ほどアンケート調査結果の説明をしていただきます。	
会長あいさつ こんばんは。オリンピックが閉会し、少し睡眠不足が解消いたしました。13個のメダルは素晴らしく、毎日感動しておりました。本日はお忙しい中、夜分お疲れのところの御出席ありがとうございます。第2次まいばら福祉のまちづくり計画策定のためのアンケート調査結果の報告と、これからの進め方について本日論議いただきます。忌憚のない論議をいただき、これからの米原市のまちづくりに活用して参りますのでよろしくお願いいたします。なお本日の会議に先立ち、膨大なアンケート資料を	

作成いただいた事務局の御努力に敬意を表します。それでは会議を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

事務局 議事に入る前に、前回会議で意見を頂戴して実施したアンケートについて簡単な振り返りをさせていただきます。今回の福祉計画は「みんなでつくる福祉計画」であり、このアンケートも市民に分かりやすい、回答しやすい調査票の作成を心掛けました。また、ルビを打つ、性別に「その他」の項目を入れるなども配慮しましたところ、58.5パーセントの回収率となりました。50パーセントを超えることを目指し、委員さんからは60パーセントを、との声もいただく中、多くの住民から貴重な意見をいただけたことは大きな成果です。いただいた意見をしっかり報告書にまとめて分析し、新年度2期目の計画づくりに活かして参ります。皆様からの意見により色々な目線でアンケートが実施できました。

2. 議事

(1)「第2次まいばら福祉のまちづくり計画」策定のためのアンケート調査結果(案)

会長 それではレジュメに沿って会議を進めて参ります。「第2次まいばら福祉のまちづくり計画」策定のためのアンケート調査結果について事務局から御報告をお願いします。

事務局 【アンケート調査結果報告書(案)により説明】

会長 空閑先生から御意見や御感想をいただけますか。

副会長 5年前のアンケートと比較しますと、高齢化の進行に伴う変化を感じました。また「地域福祉」や「地域福祉計画」等の「地域」という言葉も、世代・年代によってイメージするエリアや場所、意味合いが異なることが分かり、印象に残りました。これは米原市全体の調査ですが、小さな地域別の違いも出ておりますので、地域別の集計結果をより丁寧に掘り下げることで、いろいろと参考になるデータになると思っております。またアンケートは量的調査のため、数字上のパーセンテージで判断しがちですが、数字上に表れないことや少数意見等も丁寧に吸い上げ、住民の声を反映した計画にするためには、アンケートと合わせて住民懇談会等で質的にデータを集めていくことが大事になって参ります。このアンケート結果をじっくり見つめながら、かつ直接住民の声を聞く機会等も設けていただき、米原に暮らす方の声が反映されるような計画策定をするのがこの会議の意義かと存じますので、引き続きお願いします。

会長 それでは委員さんからもお願いします。

委員 アンケート結果では地域交流を望む人がたくさんおられますが、私の周りでは「老人会は行事への参加等に縛られるのが嫌で入りたくない」という人や、周辺地域にならい「運動会の開催をやめよう」という声もあり、それに代わる交流会を考えているところです。これまでとは異なる新しい交流の機会を作っていく必要があると思っております。神社の祭りや寺の行事でさえも参加者が少

なく、行事について考えられております。また民生委員や社協は歴史があり認識はされておりますが、民生委員にはどのような相談ができるのか、社協は何をしているところなのか知らせていく必要があります。さらに地域包括支援センターは新しいので、活用方法や内容を知らせていく必要があると思います。

会 長 他に御意見ありませんか。

委 員 75 ページ以降の課題のまとめでは、表現の中に「～が必要である」「～が求められている」「～が重要である」との文言がたくさん出てきます。これらをこれからどう具体化していくかが我々に一番求められております。「3. 日常生活について」では、相談相手に民生委員を選ばれる方の割合が 3.4 パーセント、また 20 代の 60 パーセントが民生委員を御存知ないと結果には落胆し、PR 不足を痛感いたしました。また、民生委員は敷居が高くお願いしづらいという誤解もあり、活動が軌道に乗っていないのが現状です。防災面では、近江地域の民児協で目安カードが 540 枚出され、現在意見の集約中です。中間報告ですが、10 月 22 日の避難勧告発令の際、すぐにお年寄りが避難所へ入れずに、雨の中外で待たされたという声がありました。避難時に避難所に入れないなどは言語道断です。また、防災無線放送が 4 月から変わることに対する不安や不満がかなり出ておりました。まとめて再度報告いたしますが、分析して必要なことを具体化することが大切です。

委 員 70 ページの間 37 を年代別にまとめた結果を見せたいです。

事務局 改めて年齢別集計も追加してお示いたします。

委 員 77 ページ「7. 米原市の地域福祉施策について」の下から 5 行目では、「高齢者や障がい者が安心して～」とまとめておられます。これは 72 ページのアンケート結果の引用で、多くの声ではございますが、20 代から 30 代の方々は子育て支援サービスの充実を 1 番に挙げておられますので、子育て世代の声もまとめに反映していただきたいです。

委 員 57 ページの地域包括ケアシステムの認知度では、御存知の方は 15.4 パーセント、次のページの地域包括支援センターでの相談受け付けの認知度では、御存知ない方が半数でした。一方、70 ページ「子育てや高齢者・障がい者サービスを安心して利用できる為に必要なこと」の上 2 つは相談や相談窓口であり、希望はあるのに相談先が分からない人が大半と言えます。さらに次のページの「健康や福祉を充実していくうえで優先して取り組むべき施策」でもサービスや相談の充実が挙げられており、相談機能をもっと知っていただく機会が必要で、平日の昼間だけでは難しいと感じております。現在介護施設の 13 から 14 か所で市から委託を受けて土日の相談窓口（ちょっと相談所）を開設しておられますが、これも認知度が低いようですので、行政がしっかりサポートしていることを知っていただくことで暮らしの安心につながります。また 70 ページに戻りますが、福祉サービスに関わる人材育成の充実が上位にきており、事業

所にとっては大きな課題です。各事業所だけでは限界がありますが、命に携わる重要な仕事であり、今後も人材育成に力を入れて参ります。これは行政と共に歩んでいかなければ全体の認知度の底上げにつながりませんので、今後の計画に反映していただきたいです。

会 長 相談や人材育成に対する問題等、色々な御指摘がありましたので、検討をお願いいたします。アンケートに関しましては3月10日まで御意見、御感想を伺う予定ですので、何かありましたら御連絡をお願いいたします。それを含めて最終報告書にまとめますので、よろしくをお願いいたします。次に福祉座談会についての議題に進みます。

(2) 福祉座談会について

事務局 【福祉座談会の概要資料により説明】

会 長 福祉座談会の実施方法の提案をいただきました。この会議で実施方法や開催回数を決めますがいかがですか。

委 員 アンケート結果では、身近な地域の範囲に旧町域を一番に挙げている年代はありませんが、どこの意見を拾う意図でしょうか。例えば自治会単位なら50代の意見が拾えますが、あえて旧町域にされたのはなぜですか。

事務局 現在の計画では、福祉活動事業が効果的に展開できる範囲として福祉圏域を設定しており、自治会や旧町域エリアを地域で支え合う活動圏に選定しております。その枠組みの中で話し合いの場を持つことを目的としました。

委 員 この座談会で挙がる地域に対する課題と焦点が少しずれる気がします。

会 長 確かに、この単位にしないとまとめられないのかと感じます。他に御意見はありませんか。

委 員 アンケート結果では、地域活動への参加経験がある人が前回調査から半減していますので「参加したくなる地域活動」をテーマにはいかがですか。

会 長 テーマへの御意見でした。回数はいかがですか。形態はたくさんありますが、これが妥当かと存じます。

委 員 厚労省の委員会などでは、各中学校区圏域で考えるのが一般的です。小学校区・自治会では単位が小さすぎますので、この中学校区もしくは旧町域が妥当かと存じます。回数については、1回ではまとまらない上、参加者も限られます。土曜日の昼間であれば参加しやすいですが、2回実施して別の曜日であれば年代層など全く異なる方が集められる可能性があります。

委 員 参加メンバーですが、高齢化により高齢者の人口が多く、85歳以上の3分の1が認知症ともいわれる中、介護者が増えております。この介護の大変さが社会に反映されない現状もありますので、各会場に介護者も参加いただけるようにして直接御意見を伺ってはいかがですか。

会 長 ありがとうございます。

委 員 福祉座談会を開催して福祉を広めるのは結構ですが、自分自身の経験では福祉

の会議で活発な意見を聞いたことはありません。いつも一方通行で、意見を出されるのは一部の人で、内容を理解されていない人も多く、参加するだけが目的になっている風潮もあります。参加されているメンバーの導き方が最も重要です。その辺りの考えを伺いたいです。

会 長 座談会のやり方をもう少し詳しくお願いします。

事務局 座談会は広報で周知いたします。市や社協職員も入り、関係部署からも周知の声かけをします。座談会のエリアについては、中学校区単位や旧町域単位などで悩んだ末、より大きな旧町域単位にさせていただきました。その中で地域の学区ごとに集まり、意見を拾う意図があります。みんなで作る計画ですので、可能であれば2回開催し、1回目に課題を出し、2回目にはその課題の当事者を入れた座談会にしたいと考えています。同じテーマで開催日を平日と土曜日に分けることも検討いたします。また、会議を導くためのアイデアをいただけますよう、よろしくお願いします。多方面の関係者を通じて、口コミなどで引っ張り出していきたいと考えております。さらに旧町単位で開催する意図は、協議体づくりです。地域支援事業や介護予防施策で行っていますが、1層は市内全体を区分とした「まるごと交流会」であらゆる活動者や市民の方が話し合いつながり合う場です。来年度以降は、2層という、市全体と自治会単位の身近な取組間のつながりづくりが求められております。こちらが小学校区単位などの枠を作るのではなく、旧町単位で話し合う中で、どのエリアがつながりやすいのかも感じ取っていただき、自分たちで次の集まり方を主体的に決めていただく場になればとの思いも込めております。まずは旧町域で始めながら、住民の方のよりどころや話し合う集まりを作っていく意図です。

会 長 開催回数は2回でよろしいですか。また、参加メンバーに介護者を入れてはどうかとの御意見がありましたが、それは事務局で検討していただけますか。

事務局 検討させていただきます。2回の中でより多くの当事者の方に参加いただけるよう努力して参ります。また皆様方や事業所の方々とも連携して進めて参ります。

会 長 委員様からも意見がありましたが、座談会が充実するように色々な形で計画していただきたいです。メンバーも提案されておりますが、この他に先ほど意見に出ました方々を検討することを提案いたします。それから、テーマはここに例が3つ挙げられておりますが、この他に別のテーマがありましたら出していただけませんか。

委 員 まちづくり計画の認知度や先ほど相談窓口の件もありましたが、やはり当事者である市民と事業所に一番参加していただきたいので、テーマも皆さんが思うテーマを先に洗い出して集まるべきです。そもそも周知がうまくいかない中で「地域での困りごとや解決策を話し合おう」と言って、どの程度人が集まるのか疑問です。もう少し簡単で集まりやすいテーマの設定が必要ではないかと感

じます。資料の一番下に5年間と書かれておりますので、連続性を意識した最初の取組であることを念頭に置いたテーマ設定を望みます。

副会長 同感です。特定の方が集まるのではなく、様々な世代の方の声が聞ける場にするためには、何より楽しそうだと感じられるインフォメーションが必要です。

「どんなまちで暮らしていきたいか」を色んな世代からお話いただく様な企画にしていきたいです。地域のあり方を語り合うことは、自分たちの暮らしていく地域の希望を語り合うことです。困っていることは何かを話し合ううちに気分が暗くなるような会議ではなく、希望を共有して前向きになれる場になることを望みます。そのためには参加していただく仕掛けやアイスブレイク等、当日の進行の技、ファシリテーションの技術を研究しておく必要があります。楽しく参加出来て、ここで語り合えて良かったと感じていただき、地域住民の新しい出会いの場にしていただきたいです。計画策定とはプロセスで、ここを丁寧に進めることが結果的には地域福祉につながっていく貴重な機会ですので、是非とも丁寧に取り組んでいただきたいと思っております。

会長 ありがとうございます。参加しやすい、楽しんでもらえる企画を考えていただきたいと存じます。ここに例として示されておりますのは、アンケート結果に基づいたテーマ設定ですが、それを踏まえて色んな形を考えていただきたいと存じます。いずれにせよ、これから5年間、地域で重点的に取り組んでいくことですので、みんなが楽しく集える形にしていきたいです。

委員 この座談会の対象は高齢者だけでなく、子育て世代も含まれると存じますが、旧町域での集まりには子育て世代はあまり出て来られず、その世代の困りごとは出て来ないことを懸念しております。そのような世代には、ただ来ていただく形ではなく、例えば幼稚園や学校の保護者総会などに出向いて聞き取る方がいいのではないのでしょうか。座談会等に出て来られるのは発言できる方なので、そうでない大多数の方の声もサポートできなければ、きれいごとで終わる気がしております。参加メンバーも福祉関係者とありますが、社協以外の地域密着型サービスの事業所にも声をかけていただきたいです。相談員は身近な困りごとをよく御存知で、ケアマネは本人だけでなくその周囲の困りごとも把握しておられる場合もあります。座談会だけに限らず、幅広く声を拾える機会を作っていただきたいです。

会長 ありがとうございます。

委員 この座談会は旧町単位で行うとのことですが、福祉活動には格差があります。その人たちが一堂に会して話し合い、さらに役員の任期は1年である中での開催では、本当に福祉活動の底上げにつながるのか疑問です。そこに力点を置いた開催を望みます。

会長 遡りますが、出向いて声を拾う形態という意見がありました。座談会にはどのような年齢層が集まるのか、また、昼間の開催では高齢者が大半ではないかと

存じます。子育て世代、40代から50代等幅広い年齢層の意見を聞ける場づくりや取り組み方を考えて計画を策定していきたいと存じます。それではその他に入らせていただきます。事務局から説明をお願いいたします。

3. その他

事務局 計画策定スケジュールを御覧ください。次回第6回の推進会議は福祉座談会終了後の7月頃を予定しております。そこでアンケートや座談会で得た意見を集約し、骨子案等の検討をしていただきます。スケジュールの中に当初予定から一部変更があります。担い手アンケートを4月頃と考えていましたが、座談会終了後に実施するアンケートをこれに代わる位置づけとします。それから地域福祉フォーラムが当初11月を予定しておりましたが、会場の都合上、12月の開催予定となりましたので報告いたします。本日いただいた意見から、「担い手」アンケートという名称は、座談会のメンバーが高齢層に偏るようであれば、その後に実施するアンケートを子育て世代向けにして声を拾う努力の必要性も感じております。また、今回のアンケート調査でも「参加したいが仕事で参加出来ない」という声も挙がっておりますので、こちらから出向いて声を拾いに行く努力も継続的にして参ります。12月に市民参加の地域福祉フォーラムがありますが、座談会をきっかけに、フォーラムに向けて色んな方々の御意見を伺いながら福祉計画を煮詰めて行きたいと存じます。今、御意見をいただきましたが、4月、5月は自治会長さんが代わられる時期でもあり、また福祉活動の格差もそれぞれあるかと存じますが、座談会を議論の連続性のきっかけとして、この期間の担い手アンケートにとらわれずに色々な層から御意見を伺う努力をして参ります。

会長 本日は色々な御意見をたくさんいただき、充実した会議でした。最初のアンケート調査結果については色々いただきました補足意見も踏まえて集約していただきます。また、福祉座談会については、集めるのではなく出向いていくという考え方や、年齢層について新たな考え方の御意見をいただきました。本日の案件は以上です。

部長 本日は夜分お疲れのところ、熱心な御意見、御提案を賜り、誠にありがとうございました。寒さも和らいで参りましたが、この冬は歴史的な寒波が到来し、全国的にも記録的な寒さや大雪に見舞われました。隣の福井県の国道8号では大雪により車の立ち往生が48時間以上に及ぶなど、交通網が乱れ、市民生活に大きな影響を与えました。亡くなられた方もおられ、ここでお見舞い申し上げます。さて、現在国におきまして平成30年度当初予算の審議が行われております。この予算案では人生100年時代を見据え、社会保障制度を全世代型社会保障へ転換し、人への投資を拡充する地域づくり革命や、生産性向上のための施策を推進する生産性革命を重点施策として位置づけられております。市におきましても、少子高齢化や人口減少の進展、さらには社会保障関連経費の増

大など課題が山積みしておりますが、国の施策も見極めながら、地域支え合いの取組など地域共生社会の実現に向け、着実に進めて参りたいと考えているところです。そのために必要な事項は、今ほども御指導いただきましたが、市民の皆様の声を受け止め、本計画に取り込んでいきたいと存じておりますので、今後とも委員の皆様のお支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます、お礼のあいさつとします。本日は誠にありがとうございました。

閉会